

## ペルー ブドウ輸出シーズン序盤の状況と見通し

[FreshPlaza](#) 2024年11月29日

ペルーの2024-25年度の生食用ブドウ出荷シーズンは、通常の時期に戻って予想通り開始された。

輸出業者セフコペルー社の統括マネージャーであるベンハミン・シヨニス氏は、「ペルーの昨年の出荷シーズンは予定より4週間早く始まり、特に国の北部で総出荷量が大幅に減少した。したがって、今シーズンを昨年と比較すると誤解を招く恐れがある。数字だけ見れば(これまでの出荷量は昨年同期に比べて)相対的に少ないが、これは昨年の出荷が早く始まったためである」と話す。(以下「」は同氏の話)

同氏は、今シーズンのお荷量は前シーズンと異なり6,400万箱を超えると予想している。「ほぼ確実だ。11月25日にダウンロードしたデータによると、これまでに出荷された2,100万箱のうち大部分は予想通り北部から来ている。大きな疑問は、北部が2022-23年度シーズンと同じ3,300万箱を再び達成できるかどうか、さらにその大量のお荷がいつまで続くかである。」

イカ県(中部地域)を見ると、今後数週間で大幅な増加が予想されるとシヨニス氏は説明する。「イカ県のお荷は始まったばかりで、第50週(12月上中旬)からは週に100万箱を超えるはずである。この地域は出荷のピークが拡大してきており、約8週間にわたって週に300万箱を超える可能性がある。今年、400万箱を超える週があるかも知れない。ペルー全体で週に500万箱を超えたことがあるのは1週間だけで、これは2022-23年度の第52週(年末)であった。」

輸出市場については、同氏は特にヨーロッパと米国での旺盛な需要に注目している。「ヨーロッパは昨年よりも好調で、それは現在のヨーロッパ向けのお荷量に反映されている。一方、中国市場は、昨シーズンの不調と、今年1億2千万箱(昨シーズンは約8千万箱)がお荷される可能性のあるチリ産のサクランボとの激しい競争により、予想どおり軟調である。」しかし、同氏は米国が依然としてペルー産ブドウの主要市場であると明言する。

「毎週のお荷量の分布とペルーのブドウを特徴づける高い品質により、市場で妥当な価格を維持することができており、これは非常に重要なことである。ペルー生食用ブドウ生産者輸出業者協会(Provid)が発表した推定では、今シーズンの輸出量として7,800万箱が示唆されている。約30週間続くシーズンが始まってまだ約12週間であり、北部の干ばつが今シーズンの果実に与える影響については不確実な部分がある。あと3週間ほど待てば、より明確な状況が分かる。」

**物事の無常** 今年、水不足がイカ県よりもピウラ県(北部地域)に影響を及ぼした。「ピウラ県は主に天水に依存しており、イカ県は短期的にはそれほど変動しない地下水に依存している。イカ県の帯水層は長期的な課題に直面しており、解決策はすぐそこにあるのに、不可解なことにまだ実施されていない。」

シヨニス氏にとって、この地域の水資源管理の遅れは「業界全体の大失敗」を意味している。農産業の専門家である同氏は、イカ県の可能性を強調する。「イカ県は、生食用ブドウ、そしておそらく他の作物についても、世界で一番生産に適した場所であると言っても間違いではない。北部の水危機は、沿岸地域の様々な流域で水をより適切に管理するための警鐘としなければならない。」

同氏は、水の問題に加えて、物流の問題を指摘する。「冷蔵コンテナの潜在的な不足は大きな問題である。物流チェーンを理解するのは簡単ではないが、今日では以前はなかった複数の港があり、一方ペルーの輸出量に対して利用できるコンテナの数は十分でない。」

これらの課題にもかかわらず、同氏はペルーの農業部門のイノベーションの能力に自信を持っている。「ペルーは生食用ブドウの管理に新たな歴史を刻んだ。我々の条件は近隣諸国と異なり、特有の適応が必要である。これから起こるイノベーションは、SF映画から飛び出してきたようなものかも知れないし、必ずしもブドウ業界から生まれたものではないかも知れない。」(以下省略)

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)